

北山だより

北山湿地(池金町)は、岡崎市自然環境保全条例に基づく自然環境保護区に指定されています。湿地およびその周辺でのすべての動植物の採取等の行為は禁止されています。これに違反した場合は、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。貴重な自然環境の保護にご協力ください。

北山湿地を守る活動



【5月の作業内容(15日(土)9時~15時 参加23人)】①A湿地北の新見晴台に接続する木道付け替え②A湿地木道沿いのウラジロ刈り取り



5月の作業はA湿地の木道付け替えを中心に行われました♣6月には観察会が控えていることから、メインとなるA湿地入り口から見晴台を結ぶ木道が未整備では不便をおかけするため、せめて入り口部分だけでも、ということで、当日だけは一部の会員は弁当持参で午後も作業することを申し合わせて取りかかりました♣ところが労働力の多くを集中させたこともあり、工

事はとんとん拍子で進み、結局は見晴台まで付け替えが終了してしまいました。木道の補強や滑り止めまではできなかったものの、やっている参加者も感心するほどのはかどりよう♣湿地内各所の木道の付け替えが始まって3年ほどになりますが、素人とはいえ皆さん要領を覚えて、ときばきと段取りよく進めることができるようになった結果でしょう♣観察会直前の6月9日(水)には都合のついた一部会員で臨時作業。滑り止めを木道に打ち付け、さらに各所の木道のボルトを点検し、増し締めを行いました。

北山で相次ぎ観察会



【初夏の北山湿地観察会】
6月12日(土)、岡崎市が開催した観察会には定員ぎりぎりの26人が参加。これにおかざき湿地保護の会会員9人がサポート役として付き添いました。この日は、湿地保護の会の特別

会員でもある、昆虫がご専門の大平仁夫先生(農学博士)、同じく植物がご専門の千賀敏之先生(元新編岡崎市史調査委員)を講師にお迎えして行われました。



観察会開催前、市政だより6月1日号で「生物多様性を考える」という特集が生まれ、この中で北山湿地や湿地保護の会の活動が大きく取りあげられました。これが影響したのか参加者は例年よりやや増え、また「身近にこれほど豊かな自然が残されているとは」と、多くの方が驚いていました。

ササユリやバイカツツジ、トキソウやトウカイコモウセンゴケ、ミミカキグサ、そしてハッチョウトンボやヒメタイコウチ一。里山や湿地特有の多種多様な植物や生き物たちとふれ合い、それぞれが持つ固有の特徴や、生きていくのに必要な環境などを学んだ皆さんは、この素晴らしい自然をぜひ残してほしい、大切にしたいなど、自然環境に対する意識が大いに高まったようでした。



羽化して間もないサナエトンボの仲間

に必要の環境などを学んだ皆さんは、この素晴らしい自然をぜひ残してほしい、大切にしたいなど、自然環境に対する意識が大いに高まったようでした。

(裏面へ続く)

《千万町茅葺屋敷 ホタルを観る会》茅葺屋敷も人気のホタルスポットです。▼6月26日(土)19時30分～(雨天中止)▼定員先着50人▼飲み物、懐中電灯持参▼申し込み・問い合わせは同屋敷まで電話で。(☎83-2590 火曜定休) ※水とみどりの森の駅7月のプログラムは同ホームページまたは市政だより6月15日号をチェック。

【豊田市自然観察の森イベント
～北山湿地観察会～】



翌13日には、豊田市自然観察の森(東山町)が実施するイベントのひとつが開催されました。約20人の参加者を、前日に引き続き千賀先生が講師を務めながら湿地を案内し、湿地保護の会会員7人もサポートしました。参加者の中には観察の森で保護保全活動をされている方も多く、当地では見られない植物が北山湿地で生育しているな



ど、同じような環境でありながら地域によって異なる自然環境の多様性を実感されたようでした。また、木道や案内板など整備状況にも関心を持ち、良いところは採り入れようとチェックしていました。

このように市外から団体で訪れて開かれる観察会は初めてのこと。今回の観察会を通じて北山湿地に興



味を持っていただくことができ、同時に湿地保護の会と観察の森関係者との

このたび学校法人安城学園岡崎城西高等学校よりおかげさまで湿地保護の会に、保護保全活動に使ってほしいと寄付金をいただきました。今後の運営に役立てたいと思います。城西高校の皆さん、ありがとうございました。北山湿地にぜひおいでいただき、生物多様性を体感してください。

良い交流ができました。これを機会に、互いに行き来したり情報を交換し合うなど、よりいっそう深まることが期待されます。

《豊田市自然観察の森》豊田市街から東へ4kmほど。鞍ヶ池公園の南に広がる広大な森林で、傍らを東海環状道が走る。周囲は新興住宅地など開発が進んでいるが、ため池、湿地など多様な自然が残されており、希少種も多く生息する。森を巡るいくつものコースが設定され、散策道もよく整備されている。「レンジャー」と称する自然保護や動植物に詳しいスタッフが運営し、調査・研究も行っている。また「あべまきの会」など4つのボランティア団体も活動しており、毎月さまざまなイベントを企画・実施している。6月に管理棟である新ネイチャーセンターがオープンした。同森のホームページを見ると自然やイベント情報がわかる。
〈問い合わせ〉☎0565-88-1310 FAX 88-1311 Email: toyota@wbsj.org

〈北山湿地来訪者からのご意見感想(3月～4月)〉ギフチョウを守っていただきありがとうございます。ヒナノシャクジョウを見たいです(60代 女性)▼初めて来ましたがとても良い湿地でした。こんな近場にあったとは知りませんでした。手入れも大変だと思いますが、里山はある程度の手入れをしないと悪くなるので、がんばってほしいです。ありがとうございます(30代 女性)▼4月13日に来ましたが、花が少なくて残念でした。ミツバツツジがとてもきれいで、また来たいと思います。ありがとうございます(60代 女性)。

岡崎市立中央図書館(図書館交流プラザりぶら)では6月29日まで、2階ポピュラーライブラリーにおいて「いのちのつながり～生物多様性ってなあに?」と題して、同館が所蔵する自然環境や生き物などの生物多様性関連図書、DVDなど約100点を展示中。これから勉強したり調べたりするのに何を読めばよいか、参考になるでしょう。

きたやま歳時記①

北山の樹木—ネジキ(捩木 ツツジ科) —別名カシオシミ、ヌリバシ、アカギ。

落葉低木。5m以下。花期6月。両性花。

山地の日当たりの良いところに生育。日陰では枯れます。樹幹や枝にねじれがあるのでこの名があります。

私が北山湿地のボランティアに参加して2～3回目の頃、湿地内の道を歩いていて「アッ、この木だ」と思いました。60年も前のこと。子どもの頃、旧正月の15日頃のお祝いだったと思いますが、モチイという行事があり、母親からモチイに使う木を取ってこい



と言われ、山に取りに行ったことを思い出しました。うるち米を粉にして練り、蒸して色粉(食ベニ)を入れて団子を作り、“赤芽の木”の枝先に刺して飾り(飛騨地方の花餅のような物)、お参りをしました。後日、その団子を火鉢で焼いて食べるのが楽しみでした。

私が北山湿地で初めて覚えた木は“赤芽の木”、すなわちこのネジキでした。(文と写真下/おかげさまで湿地保護の会 名倉正志)